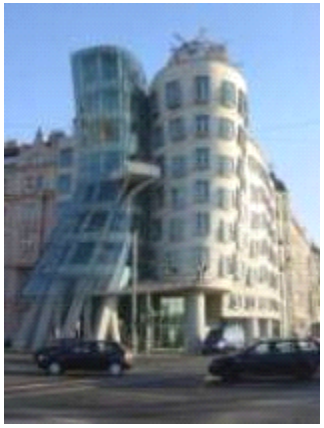
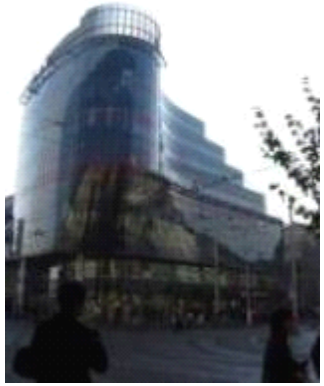
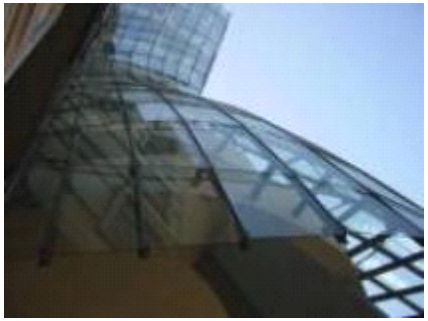
■ナショナル・ネーデルランデン・ビル/ﾌﾗﾝｸO.ｹﾞｰﾘｨ+ｳﾗｼﾞﾐｰﾙ・ﾐﾙﾆｯｸ（1996）

■プラハ・アンデル/ｼﾞｬﾝ・ﾇｰｳﾞｪﾙ（2000）

プラハの街は、カレル四世が14世紀に都市改造をおこなって以来、街の骨格はほとんど変わっていない。ロマネスクからキュビズムまであらゆる建築様式が混在し、街全体がまるで建築の博物館のようである。1974年には、旧市街にある建築の3分の1が文化財に指定されている。そのような街に「ナショナル・ネーデルランデン・ビル」通称“ダンシング・ビル”は建設された。チェコが自由化されたのを機に新しい時代の到来を告げる建築として計画され、「新しい息吹と性的なエネルギーの表現」「生命の躍動」「社会主義という汚泥のなかからわきあがる自由」を表現し、多様な感性のシンボルとなっている。

また、「プラハ・アンデル」はプラハの中心部に出現した強烈なアーバン・ランドマークともいわれる。建物はファサード建築といっていいくらい、サーフェス（表層）に凝っている。プラハの街並の伝統であるカラフルなファサードや、地下鉄アンデル駅に形象化されている、文字通り訳した“プラハの天使”がそれである。

これらの現代建築は国/街の象徴として築かれてきたことを実感させられた。